

行財政改革推進委員会議事概要（第8次第3回）

日時：平成18年8月11日（金）15：00～16：30

場所：第1委員会室

出席者

委員：鳥越会長，後山副会長，西山委員，美若委員，須江委員，福田委員，村岡委員，定久委員，藤本委員，多田委員

市側：桑山市長，福井副市長，三宅副市長ほか部長級職員

1 開 会

草苅室長

2 会長あいさつ

暑い中，ご出席ありがとうございます。津山の夏祭りがまちをあげてにぎやかだったと聞いております。どこのまちでもそうですが，祭りの活気がだんだんなくなってきております。岡山の方も昔はもっと盛んだったような気がします。

さて，8月1日に市長へ行財政改革答申書を渡しました。貴重な意見を委員各位よりいただきありがとうございます。これからは行財政改革大綱を策定する作業がありますが，どうか忌憚のない意見をよろしくお願いします。

3 市長あいさつ

行財政改革推進委員会の委員の皆様には精力的に意見を頂戴し，そして8月1日に答申書いただきありがとうございます。答申によると前例主義を改め職員の意識改革行い，歳出削減並びに税收確保をきっちり行い，財政健全化実現等改革の実行に当たっては，数値目標と事後評価を行うことによって進行管理を行うべき等市民の期待に応えることとされています。おりしも第4次総合計画を策定中であり，時機を得た答申をいただき感謝申し上げます。「市民目線」「共創・協働」そして「しあわせ大国」のため，ありとあらゆる努力をしなければならぬと重大な決意をしたところであります。8月4日全職員に対してメールにより檄文を送りました。皆さんの熱い思いを不退転の決意を持ち市民の期待に応え，行財政改革に取り組んでまいります。

4 議事

（1）津山市行財政改革大綱の策定について

（事務局）答申に基づいて策定を進めていきたいと思っております。事前配布の大綱案を説明し，委員各位の意見を頂戴したいと考えております。大綱は答申を受けた津山市の決意表明であります。前回7月18日の推進委員会後，専門委員会，検討班会議，そして8月1日の推進本部会議を重ねながら策定作業を行ってまいりました。意見を十分踏まえ最終決定をしてまいりたい。そして8月中旬ごろ策定し，庁内に周知を行うと共にパブリックコメントに付していき，実行計画を策定する運びと考えております。

（事務局）資料1により説明。なお，「推進計画」は「実行計画」とさせていただきます。

（会長）答申に基づいて，大綱についても，分かりやすくしていただいているようですがよろ

しいでしょうか。

(委員) すべて数値目標を掲げるとなっているが。

(事務局) すべての実行計画において事業の数値目標を掲げるものです。

(委員) 行財政改革が「しあわせ大国・つやま」のどのような位置づけになるのか。序文など省いてあるが審議はいらないのか。大変重要だと思うが。

(事務局) 全体をこの会議終了後配布しますので、ご意見を頂戴したい。

(委員) パブリックコメントや委員からの意見による修正はどのように考えているのか。

(事務局) パブリックコメントは具体的な意見が多いと思われるので、実行計画に反映させる予定です。また、盛り込めないものについては見直しを行なう予定です。

(委員) 意見が出てきた結果では、そういうわけにも行かないのではないのか。

(事務局) 大綱、実行計画は一定の節目で見直していきたいと考えています。

(委員) 大綱、実行計画は並行で策定しても良いのではないのか。

(委員) 未利用地の売却について記載があるが、一般市民はどう知なのか。

(市側) 市が保有している遊休地について、売却が決定すれば公募による売却となります。

(委員) 大綱は決意なので、具体になれば市民にお知らせするものである。

(委員) 3P「定員管理および給与の適正化等」の「人事評価システムの整備に向け、研究を進めます」とあるが、研究期間が長すぎるのではないのか。実施について記述する必要があるのではないのか。

(市側) 人事評価システムについては確立していない。勤務評定や目標管理制度を人事評価とマッチングさせます。したがって、「研究を進めます」を「整備を図っていきます」としたい。

(委員) 答申にはないが、分かることばで「導入を図る」が良いのではないのか。

(市側) 「導入を図る」でいきます。

【「導入を図る」で全会一致】

(委員) 「事業評価制度」を5P「進行管理」の項目にいれたらどうか。

(委員) 全体がうまくいっているかどうか評価するためには、「数値目標と進行管理」の項に「全体の評価」の項目を追加したらどうか。

(委員) 「進行管理」の項目にいれたらと思います。また、市民に周知するシステムをどう改善するのか。

(委員) アウトプットだけになっている。

(委員) 評価をしなければならない。施策に反映しなければならない。数値化だけでは進行管理にならない。

(委員) 共創・協働のチェックがない。知恵を絞るべきだ。

(委員) 「数値目標と進行管理」については、「行財政改革の具体的方策」のみではなく、全体を受けて広い進行管理をしなければならない。知恵を絞り膨らませることが重要。数値化することで管理することも記述する。

- (委員)「支所の見直し」について、記載が加わったが前回より前進していると思うが。
- (市側) そのとおり。
- (委員) 5月の推進委員会の資料で、定員管理について退職不補充 1 / 2 とあるがそうではなくて、例えばライン部長の数は採用するが、後は採用しない等とならないか。指定管理者制度の活用等すれば定員減につながるのではと思う。
- (市側) 4年間の計画であり、この4年間の退職予定者は100名程度である。さまざまな方策を駆使して目標を定めていきたい。
- (委員) 未利用地売却について、市には多くあると思うが差損方策について考えておかなければならないが、その場合役割を終えた基金を取り崩して差損対策としたらどうか。
- (市側) 公社健全化計画の中で、国の支援を受けながら健全化を図る考えであります。基金を全て取り崩してということにはならない、慎重に対応していきたい。
- (委員) どちらが得かという話であるが、柔軟な発想が必要と言える。
- (委員) 支所をすべて廃止では住民が納得しないのではないかと。ICTとはどのようなことをされるのか。県では東京岡山県人会を活用しているが、津山出身者の人的ネットワークを作って活用したらどうか。
- (市側) そもそも合併がなぜ行われたか。簡素で効率的なシステムが目的である。無駄なことには予算を使わないが、必要なところには使う。予算の強弱が必要である。計算事務をどこで行おうと、誰が行おうと影響はない。もちろん住民が直接職員に尋ねるようなことは別である。行財政改革はとにかく悪であるというようなイメージがあるが、最も適切に職員が働き、住民により良いサービスを提供するものである。
- (委員) 高齢化、少子化などあるので支所についてよりよい形をお願いする。
- (委員) 大綱は良くできている。ある職員に尋ねたが、「しあわせ大国」を知らない。また、行革もいつもやっていることと思っている。職員の認識はどうか。
- (市側) 厳しい指摘である。津山市は昭和57年以来、行革をやってきておりマンネリ化になっているかもしれない。8月4日には市長から全職員に対して檄文メールもおくっており、この行革に対する必要性は感じている。
- (市側) ありとあらゆる方策が必要である。職員をはじめ市民全体が理解することが必要である。第4次総合計画への要望は財源の10倍である。それをどう整理するか。市民にも従来の慣行がある。どういうやり方にするかが重要である。
- (委員) 市民に見える形で行うことが必要である。
- (委員) 1 P 3 「行政組織としての一体化は進んでいるものの、新生津山市民としての」、2 P 9 「市民ニーズを適確に把握して、事務手続きの...」3 P 2 () 「補助金については補助率の...」と下線部を挿入したらどうか。
- (委員) 3 P に政策評価制度は入るのか。
- (市側) 現在研究段階であるが、できれば早期に実現したいと考えている。
- (委員) 包括外部監査についてはどうか。

（市側）いましばらく検討したい。個別監査制度も検討している。

（会長）本日の各委員からの意見をよく検討してください。そして、各委員に知らせると共にパブリックコメントに付してください。

5 その他

傍聴 3 名